

名古屋港水族館の来館者の意識と行動

椋山女学園大学・人間関係学部・五百部裕

はじめに

発表者は、名古屋市東山動物園や愛知県犬山市の日本モンキーセンターにおいて、動物園の来園者の意識や行動を、アンケート調査と来園者の行動観察によって検討してきた。その結果、**動物の展示の仕方**や**展示施設前での来園者の行動**が、来園者の展示施設前の**滞在時間**や来園者の動物に対する**関心の変化**に影響を与えていることが明らかになった。

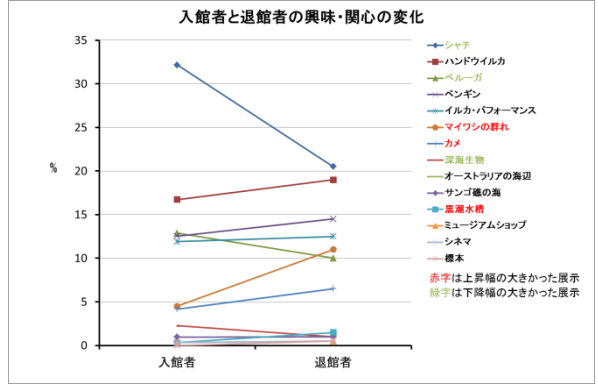
そこで本研究では、動物園と同じ「動物」を展示しながらも、展示方法や来園者（来館者）の関心が大きく異なると考えられる「水族館」において、動物園と同じ手法を用いて、**来館者の意識や行動**を調査した。

方法

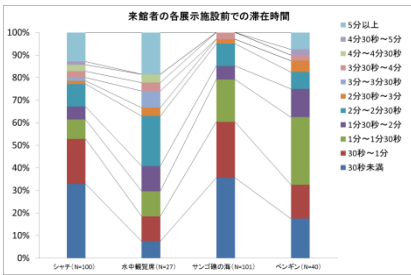
名古屋市の名古屋港水族館において、2013年6月29日（土）に調査を行った。調査は、発表者が担当する授業の一環として、椋山女学園大学・人間関係学部の3・4年生23名が行った。

アンケートは、来館者の入館時と退館時にほぼ同一の内容で行った。入館者169名、退館者104名から回答を得た。質問した内容は、来館者の性別や年齢、どこからどのような手段で来たか、滞在（予定）時間、来館回数、来館動機、そして見たい（印象に残った）展示といったことである。

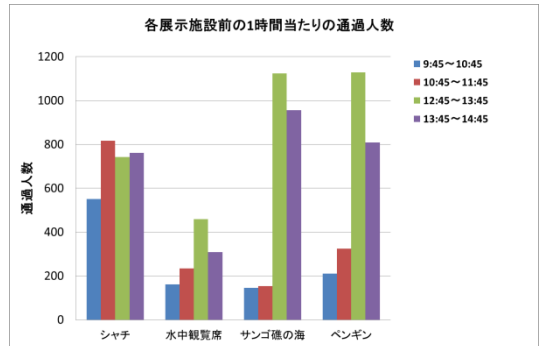
来館者の行動観察は、シャチ、水中観覧席、サンゴ礁の海、ペンギン水槽の4か所で行った（上図の○）。それぞれの施設前に「観察区域」を設け、そこに来た「ペア」（親子、カップル）を観察対象とした。そして、3~4名1組のグループで、観察対象の展示施設前の滞在時間や行動を記録した



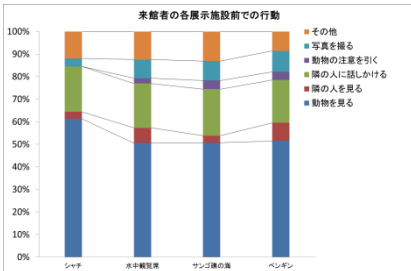
- シャチ、ペルーガ、深海生物では、入館時と比べ退館時の関心が低下した。
- マイワシの群れ、カメ、黒潮水槽では、退館時の関心が上昇した。
- 上昇した展示は、「予想外に」面白かった（印象に残った）？
→ 展示動物の動きや大きさ



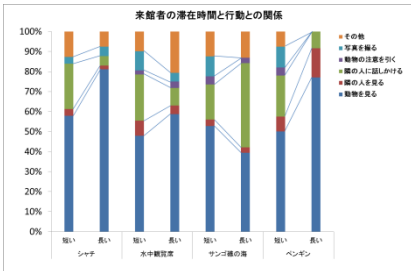
- シャチでは、30秒未満で移動する人が多い一方で、5分以上滞在する人もいた。
- 水中観覧席では、他の展示に比べ、滞在時間が長かった。
- サンゴ礁の海では、滞在時間は短く、4分以上滞在した人はいなかった。
- ペンギンでは、数分間滞在する人が多く見られた。



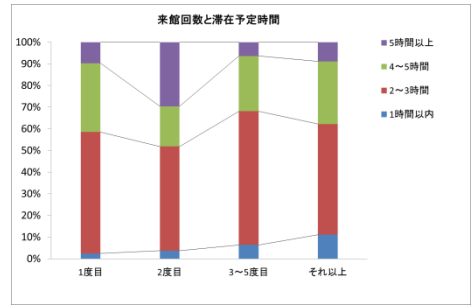
- シャチは午前、午後とも通過人数が安定して多かった。
- 水中観覧席は午前、午後とも比較的低かった。
- サンゴ礁の海とペンギンは午前中は少なかったが、午後になると増加した。



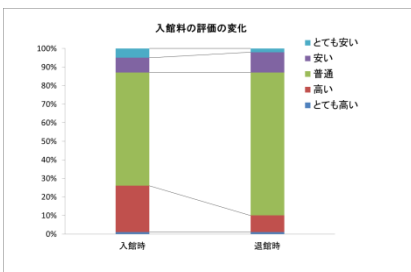
- 四つの展示施設前での来館者の行動には、大きな違いは認められなかった。
- シャチでは、動物を見るという行動の割合が、他の施設に比べて高かった。



- 滞在時間と行動との関係を見ると、展示施設による違いが認められた。
- シャチでは、滞在時間が長くなると、動物を見るという行動が増加した。
- 水中観覧席やペンギンでも、同様の傾向が認められた。
- サンゴ礁の海では、滞在時間が長くなると隣の人に話しかける行動が増加した。



- 来館回数が増えると、1時間以内の滞在の割合が増加した。
- 上記以外に、来館回数と滞在時間の間に明確な関係は認められなかった。



- 入館時と比べて、退館時には、入館料を高いと評価する人の割合は低下した。
- 退館時には、入館料を普通、ないしは安いと評価する人の割合が増加した。

まとめ

水族館においても、動物園と同じく、入館時と退館時で、来館者の関心のある動物が変化しました。こうした変化に影響を与えているのは、展示動物の動きや大きさ、また展示施設そのものの大きさなどであると推測された。

また展示施設の通過人数や施設前での来館者の滞在時間は、展示施設によって異なっていました。これは館内の位置や座ることができるかどうか、さらには展示動物の動きなどが要因であると考えられました。